

福岡県支部

歯科診療所の経営診断に関わる調査研究

本報告書は、福岡県支部医療介護研究会のメンバーが過去2年間にわたり歯科診療所より収集したデータの分析結果の集大成である。調査したエリアは、北部九州を中心に広島県までに及ぶ。さらに不足するデータ収集のため多くの歯科医院へのフォローを行っている。

歯科診療所の経営は予断を許さない。薬価・医療費の改定や虫歯予防の普及、少子化等、今後脅威と考えられる事項は多い。一方で、顧客の歯科診療所に対する選択眼は高くなり店舗やサービスに要するコストは増加傾向にある。このような環境下で、今後の医療経営がどうあるべきか、どのような点にフォーカスして指導を行うべきかについては、われわれ診断士に高い資質と豊富な情報量が要求されてくる。これらの問題意識から、財務を中心に歯科医院の属性（立地、所有形態、営業時間 etc）情報の収集に努め本書の作成に着手した。本報告書にはおよそ40に及ぶ歯科診療所のデータを集約している。さらにレセプトデータの収集を図ることでより内容のある分析を行うことができた。

本書をまとめるに当たっては、単なる調査・分析報告書にとどまらず歯科診療所の経営者に貸与してもそのまま参考文献として活用可能な構成に配慮している。それらは「歯科経営の勘どころ」「Q&A」に集約して記載しており、有効な活用が可能な内容となることを目指した。本書の構成は、おおよそ以下のような構成である。

第1章では、歯科診療所を取り巻く環境についてマクロの視点からまとめている。この章では、歯科経営の今後の厳しい環境予測と歯科経営における情報化の進展や、技術進歩について論じている。

第2章では、過去に集積した財務データ、レセプトデータをもとに現状の歯科経営について分析を行っている。これらの分析には、BS、PLはもとよりレセプトデータ、調査を実施した診療所の属性からも分析を行った。

第3章では、「歯科経営の勘どころ」と称し、歯科経営に欠かすことができない要素を体系立てて集約している。過去のヒアリングで歯科経営者からの要望が多い内容に絞って基本的な内容から説明する手法をとっている。

第4章では、事例研究として少ない医師数で効率的な経営を展開する診療所、および訪問診療を含めた新しいサービスの開発に積極的な診療所のケースを取り上げ、財務と属性から分析を試みている。

第5章では、「歯科経営のQ&A」と称し、歯科経営者が抱える疑問にフォーカスし、その疑問に答える形式で記載している。本章の作成に当たっては、読者は歯科経営者であるとの仮定を前提にしている。したがって、できるだけ平易に基本的な部分を多く説明に費やし記載した。

本報告書は、診断士向けの専門的な分析と歯科経営者を対象とした平易な説明で構成される。上記に記したような構成をご理解のうえ、ご活用いただければ診断士にも歯科経営者にもよき文献となると自負している。